物語を活用するプロジェクトマネジメント教育

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1142064　鈴木淳子

1. 研究の背景

　プロジェクトマネジメントに関する知識及び活動には，多くの経験から蓄積された実務的な経験が必要となる．そのため，多くの企業でプロジェクトマネジメントの知識を習得するための研修が行われている．

本研究では，PMの知識を習得するために行われている「【PM桃太郎！】～プロジェクトマネジメントを学ぼう～」[1] （以後，PM桃太郎）というセミナーに着目する．

このセミナーは，特定非営利活動法人 Layer Boxが主催しており，小学校高学年から中学生を対象とし，2日間かけて行われるプログラムである．そのプログラムでは対象者が理解しやすいように，昔話の「桃太郎」を用いている．

プログラムの成果物は，グループごとに作成された絵本であり，その内容は，「桃太郎」をプロジェクトマネジメントの視点から解釈し，考察したものである．

1. 研究の目的

本研究の目的は，物語を活用してプロジェクトマネジメントの知識を学ぶことのできるプログラムを考案することである．

　本研究では，上記のプログラムを考案し，プロジェクトマネジメントを学ぶ大学生を対象に考案したプログラムを実施し，結果を検証する．

1. 研究の方法

本研究のプログラムは，千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科に所属する1年生が参加する，東京ディズニーシーでのオリエンテーションで実施する．

対象者は，千葉工業大学社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科1年生の矢吹グループ（以後，矢吹グループ）に所属する10名であり，私が考案したプログラムを実施し，その結果を分析し，考察する．

プログラムの実施内容を以下に記載する．

(1)期間

　4月21日～7月5日（東京ディズニーシーのオリエンテーションの期間）

(2)内容

はじめに，私が「PM桃太郎[1]」について調査を行い，プログラムを考える．

次に，対象者が東京ディズニーシーに関する物語を調査し，調査した物語に沿ってPMの一連の活動を擬似する．私はこの活動に沿って，考案したプログラムを実施する．

(3)検証方法

プログラムの実施後，アンケート調査を行う．次に，学生の成績（一般的な科目の成績とPMに関する授業の成績）を収集し，分析をする．

本研究は，分散分析を用いて，本プログラムの効果を検証する．さらに，本研究で考案したプログラムは，学生を対象とするため，学生が本プログラムで学びたいと思うようなプログラムを考案しなければならない．そのため，本プログラムが学生の興味を引くことができたかどうかを検証する必要がある．その成果を検証するために，アンケート調査を行う．

1. 研究結果

　分析結果から，私の考案したプログラムを実施した矢吹グループと実施していない学生とでは，本プログラムを実施した違いによる学力の差が出なかったと示された．しかし，アンケート調査によって，プログラムを実施した矢吹グループのプログラムにおける満足度を得ることができた．これらの研究結果をふまえ，プログラムの修正を行い，完成したプログラムについて考察をし，本研究を終了した．

5．考察

私の考案したプログラムは，効果をきちんと証明できなかった．しかし，本研究課題研究から続けていた本研究は，課題研究の最終発表や卒業研究の中間発表にて，多くの学生が興味を示して積極的に話を聞いてくれた．このことは，本手法が学生にプロジェクトマネジメントへの興味を持たせるための有効な方法であることを示唆している．

参考文献

[1] 特定非営利活動法人 Layer Box. 【ＰＭ桃太郎！】～プロジェクトマネジメントを学ぼう～. (2013-10-21).

http://www.aoniyoshi.us/layerbox/110326-pmmomotaro.htm